

繊維製品の洗濯絵表示 JIS 改正の検討について － JIS L0217 の ISO 3758 との整合化 －

平成 24 年 6 月 1 日

1. 現状

(1) 洗濯絵表示の規格について

①国内規格

国内規格である JIS(日本工業規格) L0217(繊維製品の取り扱いに関する表示記号及びその表示方法)においては、家庭における洗濯などの取扱い方法を指示するため、洗濯絵表示(6分類 22種)、表示方法、試験方法が規定されている(1968年に制定され、1995年に最終改正)。

JIS そのものは任意であるが、家庭用品品質表示法で JIS が引用されており、繊維製品(主に衣料品)への表示が義務づけられている。

②国際規格

国際規格である ISO(国際標準化機構) 3758(繊維—記号による取り扱い表示コード)においては、繊維製品の洗濯絵表示(5分類 41種)が規定されている(1991年に制定され、2012年に最終改正)。

また、ISO 6330(家庭洗濯と乾燥試験方法)においては、家庭用洗濯の表示に関する試験方法が規定されている(1984年に制定され、2012年に最終改正)。

2. 我が国の対応

(1) 国際標準への我が国の対応

近年、経済のボータレス化を背景に、国際規格と各国規格の整合化の重要性が増しており、1995(平成7年)年1月の WTO(世界貿易機関)/TBT(貿易の技術的障害に関する協定)¹の発効、内外の要望に対応した「規制緩和推進計画」(平成7年3月)における早急な整合化実施の決定などを踏まえ、国内規格の国際規格への整合化が順次行われてきた。

(2) 洗濯絵表示規格に関する対応

①洗濯絵表示の規格についても、ISO 3758 が制定された 1991 年以来、ISO 3758 と JIS L0217 の整合化の検討が行われてきた。

1995 年には、JIS L0217 が改正され、ISO 3758 への一部整合化が図られたが、ISO 規格 (ISO 3758 及び ISO 6330) には我が国の洗濯習慣上必要な記号 (自然乾燥表示) や我が国で用いられている洗濯機 (パルセータ型 (縦型) 洗濯機) による試験方法が規定されておらず、整合化にはこれらの課題の解決が必要であった。

¹ 『国内規格は国際規格を基礎とすること』を加盟国に義務づけている。

- ②これらの状況を踏まえ、我が国においては、ISO 規格に改正提案を行うための検討、データ収集を行い、ISO 規格の改正案（ISO 3758：自然乾燥記号の追加等、ISO 6330：パルセータ型洗濯機による試験方法の追加）の提案を行ってきたところ、本年4月に我が国からの改正提案が反映された2012年版が発行され、整合化における課題の解決が図られた。
- ③このように整合化への環境が整備されたことを踏まえ、2011年より、一般社団法人繊維評価技術協議会を事務局として、繊維業、衣服販売業、クリーニング業、消費者などの関係者で構成するJISの原案作成委員会（委員長；角田 光雄 文化学園大学大学院・名誉教授）が設置され、国際標準に整合したJIS改正（一部制定を含む）について検討が行われている。また、JIS改正（一部制定を含む）に伴い、混乱や事故が生じないよう消費者への周知などについても検討していく予定。
- ④衣服の取扱いの表示が国際的に整合化されることによって、洗濯絵表示の種類が増え、繊維製品の取扱いに関するきめ細かな情報提供が可能となる（（例）家庭用乾燥機の普及を反映した乾燥機による取扱いの表記等）。さらに、洗濯絵表示が国内外で統一されることによって、海外における商品購入時等における利便性向上が期待される。

<ISO と JIS の比較>

ISO	JIS	今後の予定
ISO 3758(繊維製品の取扱いに関する洗濯絵表示及びその表示記号)	JIS L0217(繊維製品の取扱いに関する洗濯絵表示及びその表示記号)	JISL0217の改正。
ISO 6330(家庭洗濯と乾燥試験方法)	同上	JIS制定。

3. JIS改正（一部制定を含む）スケジュール（予定）


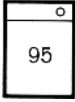



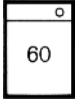




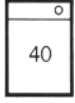


- ①2011年度～2013年度 JIS原案作成委員会において検討
ISOは、ラベル表示のみならず、その表示に関わる試験方法が規定されており、当該試験方法の導入に向けて必要に応じ実績データを蓄積しつつ、JIS原案を検討。
- ②2014年度 日本工業標準調査会（JISC）において審議。
議決された場合、改正（一部制定を含む）の公示予定。
- ③JISが改正（一部制定を含む）された後、同JISを家庭用品品質表示法に適用し、表示が義務づけられる予定。
当省としては、当該JISの改正（一部制定を含む）を踏まえ、関係省庁と連携を図りつつ、周知を図っていく予定。

(連絡先)産業技術環境局 環境生活標準化推進室(直通 :3501-9283、内線 :3426)

製造産業局 繊維課 (直通 : 3501-0969、内線 : 3861)

ISO 3758（繊維—記号による取り扱い表示コード）：2012 と JIS L0217（繊維製品の
 取扱いに関する表示記号及びその表示方法）：1995（現行版）との表示記号に関する
 対比表

表 1 洗濯処理のための表示記号

ISO3758:2012		JIS L0217:1995（現行版）		
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味
	—最高温度 95℃ —普通の操作			
		101		—液温は 95℃を限度とし、洗濯ができる
	—最高温度 70℃ —普通の操作			
	—最高温度 60℃ —普通の操作			
	—最高温度 60℃ —弱い操作	102		—液温は 60℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる
	—最高温度 50℃ —普通の操作			
	—最高温度 50℃ —弱い操作			
	—最高温度 40℃ —普通の操作			
	—最高温度 40℃ —弱い操作	103		—液温は 40℃を限度とし、洗濯機による洗濯ができる
	—最高温度 40℃ —非常に弱い操作	104		—液温は 40℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい









	—最高温度 30℃ —普通の操作			
	—最高温度 30℃ —弱い操作			
	—最高温度 30℃ —非常に弱い操作	105		—液温は 30℃を限度とし、洗濯機の弱水流又は弱い手洗いがよい
	—手洗いのみ —最高温度 40℃	106		—液温は 30℃を限度とし、弱い手洗いがよい。 —洗濯機は使用できない
	—家庭洗濯禁止	107		—家庭で水洗いはできない

表 2 漂白処理のための表示記号

ISO3758:2012		JIS L0217:1995 (現行版)		
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味
	—あらゆる漂白剤が使用できる。			
		201		—塩素系漂白剤による漂白ができる
		202		—塩素系漂白剤による漂白はできない
	—酸素系／非塩素系の漂白剤のみ使用できる。 塩素系漂白剤は使用できない。			
	—漂白剤の使用禁止／漂白禁止			

表3 しぼり方のための表示記号







ISO3758:2012		JIS L0217:1995 (現行版)		
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味
	自然乾燥記号に併合	501		一手絞りの場合は弱く、遠心脱水の場合は短時間で絞るのがよい
		502		一絞ってはいけない

表4 乾燥のための表示記号

ISO3758:2012		JIS L0217:1995 (現行版)			
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味	
タ ン ブ ル 乾 燥					
					
		—タムブル乾燥禁止			
自 然 乾 燥		ラインドライ (吊干し)	601		—吊干しがよい
		ドリップラインドライ (濡れ吊干し)			
		フラットドライ (平干し)	603		—平干しがよい
		ドリップフラットドライ (濡れ平干し)			
		日陰のラインドライ (日陰の吊干し)	602		—日陰の吊干しがよい

	日陰のドリップライン ドライ（日陰の濡れ吊 干し）			
	日陰のフラットドライ （日陰の平干し）	604		一日陰の平干しがよい
	日陰のドリップフラッ トドライ（日陰の濡れ 平干し）			

表5 アイロン処理のための表示記号















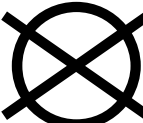





ISO3758:2012		JIS L0217:1995（現行版）		
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味
	—底面の最高温度 200℃まで	301		—210℃を限度とし、高い温 度（180～210℃まで）で掛け るのがよい。
	—底面の最高温度 150℃まで	302		—160℃を限度とし、中程度 の温度（140～160℃まで）で 掛けるのがよい。
	—底面の最高温度 110℃まで	303		—120℃を限度とし、低い温 度（80～120℃まで）で掛け るのがよい。
	—アイロン禁止	304		アイロン掛けはできない。

表 6 業者ドライ及びウェットクリーニングのための表示記号

ISO3758:2012		JIS L0217:1995 (現行版)		
表示記号	表示記号の意味	番号	表示記号	表示記号の意味
	—業者ドライクリーニング —テトラクロロエチレン及び 記号 F に記載の全ての溶剤 —普通操作	401		—ドライクリーニングができる。溶剤は、パークロロエチレンまたは石油系のものを使用する。
	—業者ドライクリーニング —テトラクロロエチレン及び 記号 F に記載の全ての溶剤 —弱い操作			
	—業者ドライクリーニング —石油系溶剤 (蒸留温度 150 ~210°C、引火点 38~70°C) —普通操作	402		—ドライクリーニングができる。溶剤は石油系のものを使用する。
	—業者ドライクリーニング —石油系溶剤 (蒸留温度 150 ~210°C、引火点 38~70°C) —弱い操作			
	—ドライクリーニング禁止	403		—ドライクリーニングはできない
	—業者ウェットクリーニング —普通操作			
	—業者ウェットクリーニング —弱い操作			
	—業者ウェットクリーニング —非常に弱い操作			
	—ウェットクリーニング禁止			